



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月2日

上場会社名 持田製菓株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 竹田 雅好

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 2020年11月12日

配当支払開始予定日

2020年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	51,623	0.2	7,229	16.6	7,385	15.5	5,411	17.8
2020年3月期第2四半期	51,512	10.0	6,200	18.7	6,393	17.6	4,592	33.8

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 6,563百万円 (187.8%) 2020年3月期第2四半期 2,280百万円 (77.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	139.63	
2020年3月期第2四半期	117.07	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	158,480	125,677	79.3
2020年3月期	157,488	120,665	76.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 125,677百万円 2020年3月期 120,665百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		40.00		40.00	80.00
2021年3月期		40.00			
2021年3月期(予想)				40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	102,000	0.2	7,800	11.4	8,200	10.4	5,800	26.1	149.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.9'2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期2Q	40,630,000 株	2020年3月期	40,630,000 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2021年3月期2Q	1,877,130 株	2020年3月期	1,876,734 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期2Q	38,753,028 株	2020年3月期2Q	39,229,270 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は、2020年11月5日(木)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
3. 補足情報	10
(1) [連結]設備投資、減価償却費、研究開発費	10
(2) 主要製品の売上高	11
(3) 医薬品等開発状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

医薬品業界では、社会保障費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制政策が継続的に推し進められ、また企業間競争も加速しており、引き続き厳しい事業環境にあります。

このような状況下、当第2四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ)は、事業環境の変化にも対応し持続的に成長し続けるために、利益重視と将来への投資の継続を基本方針とし、「新薬等への注力」「次世代の柱構築のための継続的な投資」「選択と集中による、リソースの戦略的再配分」に重点的に取り組んでまいりました。医薬品関連事業では、循環器、産婦人科、皮膚科、精神科、消化器の重点領域等へリソースを集中し、スペシャリティファーマを目指して、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、敏感肌用スキンケアのパイオニアとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、51,623百万円で前年同期比0.2%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業では、2019年10月及び2020年4月の薬価改定及び新型コロナウイルス感染症による受診抑制やMR(医薬情報担当者)の医療機関への訪問自粛等の影響がありました。こうした事業環境の中で、新薬の潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」及び慢性便秘症治療剤「グーフイス」、「モビコール」の売上高が伸長しました。一方、抗うつ剤「レキサプロ」の売上高は前年同期を下回りました。長期収載品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」、慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤「トラムセット」及び持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」は、薬価改定及び後発品使用促進策の影響等により、それぞれ売上高は前年同期を下回りました。後発品事業は、バイオ後続品「エタネルセプトBS「MA」」の伸長に加えて、2019年11月に販売を開始したバイオ後続品「テリパラチドBS「モチダ」」が寄与し、売上高は前年同期を上回りました。また、ロイヤリティ収入等もあり、全体としては48,848百万円で前年同期比0.2%の増収となりました。なお、2020年5月には、痛風・高尿酸血症治療剤「ユリス」及び月経困難症治療剤「ディナゲスト」の販売を開始しました。

ヘルスケア事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により、洗浄石鹸などの衛生関連用品の需要は好調に推移しました。こうした事業環境の中で、抗真菌成分配合シャンプー・リンス・石鹸等の「コラージュフルフルシリーズ」の売上高が堅調に推移し、ヘルスケア事業の売上高は2,774百万円で前年同期比1.1%の増収となりました。

次に当第2四半期連結累計期間の利益面につきましては、売上原価率の低減により、売上総利益は増加しました。加えて、研究開発費の減少を主な要因として、販売費及び一般管理費が減少しました。その結果、営業利益は7,229百万円で前年同期比16.6%の増益、経常利益は7,385百万円で前年同期比15.5%の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は5,411百万円で前年同期比17.8%の増益となりました。

研究開発の状況につきましては、研究面では、オープンイノベーションの推進を通じた早期開発候補品の導入等により開発パイプラインの充実を図るべく創薬研究活動に取り組んでおります。また、統合失調症治療薬、疼痛治療薬(TRPV1拮抗薬)の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、新規高純度EPA製剤「MND-2119」、「リアルダ」の小児適応、「レキサプロ」の小児適応、ファイザー株式会社と共同開発を行っている抗うつ剤「MD-120」、中国において住友製薬(蘇州)と提携して開発を進めている高トリグリセリド血症治療剤「MND-21」及びイドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社と共同開発を行っている不眠症治療剤「ACT-541468」については、それぞれ臨床第Ⅲ相段階にあります。肺動脈性肺高血圧症治療剤「MD-711」については、臨床第Ⅱ/Ⅲ相段階にあります。関節軟骨損傷治療材「dMD-001」については、検証的治験段階にあります。

当第2四半期連結累計期間の研究開発費は、4,651百万円であります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当社グループの当第2四半期連結会計期間末の総資産は、158,480百万円となり、前連結会計年度末比で992百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に商品及び製品が減少しましたが、投資有価証券や現金及び預金が増加したためです。負債の減少は、主に未払法人税等が増加しましたが、支払手形及び買掛金や賞与引当金が減少したためです。純資産の増加は、主に配当金の支払により利益剰余金が減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加や投資有価証券の時価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加があったためです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、38,323百万円となり、前連結会計年度末比で531百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に仕入債務が減少しましたが、税金等調整前四半期純利益などにより3,013百万円の収入(前年同期は1,908百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形・無形固定資産の取得による支出などにより925百万円の支出(前年同期は192百万円の収入)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払による支出などにより1,553百万円の支出(前年同期は1,773百万円の支出)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続するとみられ、2020年5月15日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、現時点では、業績に対する新型コロナウイルス感染症の影響は限定的です。今後、業績に大きな影響が見込まれる場合は、速やかに情報を開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	53,291	53,823
受取手形及び売掛金	28,066	27,656
電子記録債権	382	413
有価証券	7,999	7,999
商品及び製品	16,596	15,627
仕掛品	1,394	1,557
原材料及び貯蔵品	7,083	6,705
その他	2,080	2,579
流動資産合計	116,894	116,361
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,112	5,164
機械装置及び運搬具（純額）	1,970	2,127
土地	5,290	5,290
その他（純額）	1,478	1,049
有形固定資産合計	13,851	13,632
無形固定資産	674	669
投資その他の資産		
投資有価証券	16,256	17,908
繰延税金資産	4,612	4,165
その他	5,198	5,742
投資その他の資産合計	26,067	27,817
固定資産合計	40,593	42,118
資産合計	157,488	158,480

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,606	8,448
電子記録債務	1,052	1,068
未払法人税等	1,042	1,736
賞与引当金	2,335	2,084
その他の引当金	698	668
その他	10,826	10,577
流動負債合計	28,562	24,582
固定負債		
退職給付に係る負債	4,800	4,755
その他	3,460	3,465
固定負債合計	8,260	8,220
負債合計	36,822	32,803
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	110,800	114,661
自己株式	△6,854	△6,856
株主資本合計	113,047	116,907
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,524	8,671
退職給付に係る調整累計額	93	98
その他の包括利益累計額合計	7,617	8,769
純資産合計	120,665	125,677
負債純資産合計	157,488	158,480

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)
売上高	51,512	51,623
売上原価	24,915	24,491
売上総利益	26,597	27,132
返品調整引当金繰入額	6	—
差引売上総利益	26,591	27,132
販売費及び一般管理費	20,390	19,902
営業利益	6,200	7,229
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	128	128
その他	74	64
営業外収益合計	205	194
営業外費用		
支払手数料	7	7
為替差損	—	28
その他	4	2
営業外費用合計	11	38
経常利益	6,393	7,385
特別利益		
受取和解金	3	27
受取補償金	5	—
特別利益合計	8	27
特別損失		
固定資産除売却損	35	59
特別損失合計	35	59
税金等調整前四半期純利益	6,366	7,353
法人税等	1,774	1,942
四半期純利益	4,592	5,411
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,592	5,411

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	4,592	5,411
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,327	1,146
退職給付に係る調整額	14	5
その他の包括利益合計	△2,312	1,151
四半期包括利益	2,280	6,563
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,280	6,563

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,366	7,353
減価償却費	1,317	1,309
受取和解金	△3	△27
固定資産除売却損益 (△は益)	35	59
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△366	△251
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△65	△37
受取利息及び受取配当金	△130	△129
支払利息及び支払手数料	7	7
売上債権の増減額 (△は増加)	229	380
たな卸資産の増減額 (△は増加)	23	1,183
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	246	△556
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,672	△4,141
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△1,174	69
その他	△60	△1,038
小計	2,752	4,180
利息及び配当金の受取額	130	129
利息及び手数料の支払額	△7	△7
和解金の受取額	3	27
法人税等の支払額	△971	△1,316
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,908	3,013
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△10,000	△10,000
定期預金の払戻による収入	10,000	10,000
有価証券の取得による支出	△1,000	△1,000
有価証券の売却による収入	2,000	1,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	△810	△929
その他	3	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	192	△925
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,767	△1,551
自己株式の取得による支出	△6	△1
自己株式の売却による収入	0	—
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,773	△1,553
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	327	531
現金及び現金同等物の期首残高	35,532	37,791
現金及び現金同等物の四半期末残高	35,859	38,323

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 補足情報

(1) [連結] 設備投資、減価償却費、研究開発費

1. 設備投資

	2020年3月期	2021年3月期
第2四半期	645 百万円	542 百万円
通 期	1,889 百万円	(予想) 2,000 百万円

2. 減価償却費

	2020年3月期	2021年3月期
第2四半期	1,317 百万円 (うち、有形固定資産 787 百万円)	1,309 百万円 (うち、有形固定資産 743 百万円)
通 期	2,731 百万円 (うち、有形固定資産 1,673 百万円)	(予想) 2,700 百万円 (うち、有形固定資産 1,500 百万円)

3. 研究開発費

	2020年3月期	2021年3月期
第2四半期	4,943 百万円 (売上高比 9.6%)	4,651 百万円 (売上高比 9.0%)
通 期	11,884 百万円 (売上高比 11.7%)	(予想) 12,700 百万円 (売上高比 12.5%)

(2) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(2021年3月期 第2四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 2020年3月期		当 期 2021年3月期		対前年 同四半期 増減率	
	第2四半期 実績	年間 実績	第2四半期 実績	年間 見込		
抗うつ剤	レキサプロ	84	165	80	151	△ 5%
潰瘍性大腸炎治療剤	リアルダ	43	90	52	113	+ 21%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤	エパデール	64	121	53	101	△ 17%
慢性便秘症治療剤	グーフィス	16	37	23	63	+ 44%
慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤	トラムセット	40	71	22	43	△ 43%
持続性Ca拮抗降圧剤	アテレック	23	45	20	36	△ 14%
慢性便秘症治療剤	モビコール	6	18	15	28	+ 149%
抗悪性腫瘍剤	ドキシル	14	28	14	25	+ 3%
肺動脈性肺高血圧症治療剤	トレプロスト	10	19	9	19	△ 12%
子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤	ディナゲスト	8	16	9	17	+ 20%
血液凝固阻止剤	ヘパリンNa	7	14	6	13	△ 11%
真菌症治療剤	フロリード	6	10	5	10	△ 13%
抗ウイルス剤	アラセナ-A	5	11	4	9	△ 25%
尖圭コンジローマ・日光角化症治療剤	ベセルナ	5	10	5	9	△ 3%
膝炎・ショック治療剤	ミラクリッド	4	9	4	8	△ 8%
後発品		116	233	124	253	+ 7%
スキンケア製品		27	53	27	57	+ 1%

- ・レキサプロは、自社販売と田辺三菱製薬株式会社への販売の合算
- ・アテレックは、アテディオを含む

(3) 医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 [製品名]	開発段階	予定適応症	剤型	備考
MD-0901 〈メサラジン〉 [リアルダ]	臨床第Ⅲ相	潰瘍性大腸炎 (小児適応)	経口剤	シャイアー・ファーマシューティカルズ・グループ社(現武田薬品グループ)から導入 自社開発
MND-2119 〈イコサペント酸エチル〉	臨床第Ⅲ相	高脂血症	経口剤	自社開発
MLD-55 〈エスシタロプラムシユウ酸塩〉 [レクサプロ]	臨床第Ⅲ相	うつ病・うつ状態 (小児適応)	経口剤	ルンドベック社から導入 自社開発
MD-120 〈デスベンラファキシニコハク酸塩水和物〉	臨床第Ⅲ相	うつ病・うつ状態	経口剤	ファイザー(株)と共同開発
MND-21 〈イコサペント酸エチル〉 [エパデール]	臨床第Ⅲ相	高トリグリセリド血症	経口剤	開発地域:中国 住友製薬(蘇州)と提携
* ACT-541468 〈daridorexant〉	臨床第Ⅲ相	不眠症	経口剤	イドルシア ファーマシューティカルズ ジャパン(株)と共同開発
MD-711 〈トレプロスチニル〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症	吸入剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発

【医療機器】

dMD-001 〈アルギン酸ナトリウム〉	検証的治験	関節軟骨損傷		自社開発
-------------------------	-------	--------	--	------

* 2021年3月期第1四半期決算短信(2020年7月31日公表)からの変更点

医療機器の開発段階は医薬品とは異なり、第Ⅰ相から第Ⅲ相のような区分はなく、その内容により探索的治験と検証的治験に区分されます